

2013年10月9日 発

報道関係者各位

学校法人東北学院 法人事務局広報部広報課
〒980-8511 宮城県仙台市青葉区土樋1-3-1
電話: 022-264-6423 / E-Mail: koho@tohoku-gakuin.ac.jp

東北学院大学地域共生推進機構
〈連続講座〉震災と文学
2013年度全5回
メディア紹介と取材のお願い

東北学院大学ではこの10月より地域貢献活動の一環として「〈連続講座〉震災と文学」を開講いたします。講師は、熊谷達也・和合亮一・鎌田慧・若松丈太郎・玄侑宗久の5氏。学生だけでなく一般市民も対象とした、開かれた全5回の講座です。ぜひ貴媒体にてご紹介くださいますよう、よろしくお願いたします。

- ◆熊谷達也／2013年**10月25日**(金) 18:00～19:30
「小説に何ができるか～仙河海市の物語を通して～」
- ◆和合亮一／2013年**11月8日**(金) 18:00～19:30
「『詩の磔』から『廃炉詩篇』へ」
- ◆鎌田慧／2013年**11月22日**(金) 18:00～19:30
「東北と原発の40年」
- ◆若松丈太郎／2013年**12月6日**(金) 18:00～19:30
「3.11以前、福島の前原発詩歌」
- ◆玄侑宗久／2014年**2月17日**(月) 18:00～19:30
「無常を生き抜く」

■会 場／東北学院大学土樋キャンパス 5号館521教室
*ご来場の際は公共交通機関をご利用ください

■料 金／【 無 料 】

■主 催／東北学院大学地域共生推進機構

■企画・コーディネート／有限会社荒蝦夷

※席に限りがございますので事前のお申し込みをお勧めいたします。
申込者の氏名・住所・電話番号(お持ちの方はEメールアドレスも)・年齢を
ご明記の上、ハガキ、FAX、またはEメールにて下記までお申込みください。
5回連続でも1回ごとでもお申込みいただけます。

【本件に関するお申込み・お問い合わせ】

東北学院大学地域共生推進機構

〒980-8511 仙台市青葉区土樋1-3-1

FAX: 022-264-6364 Eメール: kikou@staff.tohoku-gakuin.ac.jp

【企画趣旨】

3.11の東日本大震災は、未曾有の災害と言われる。しかし未曾有ではない。この大震災は私たちの生の組み立て方に深刻な反省を促した。戦後に私たちが受け容れてきた生の枠組みについての反省である。こうした枠組みについての反省を、すでに800年前の日本の文学が行っている。平安から鎌倉にかけてのその時も、深刻な天変地異があり、そして人災としての戦争があった。人々は生きることを問い直し、そして綺羅星のような数々の生の形を作り出した。その形が日本人の精神的骨格を作り出している。

あの時代と同じ問いの前に、私たちは再び立たされている。私たちがまた、生きる形を問い直し、新しい軌跡を作っていくかねばならない。文学は、今を生きる人々の生きる形の模索とならねばならないだろう。震災が機縁となって私たちに考えることを強いたこの問いを前にし、私たちはここに『震災と文学』という考える場、生きる形を問う場所を設けたいと思う。

佐々木俊三

(東北学院大学副学長・同大学地域共生推進機構機構長)

◇ 講座内容 ◇

◆熊谷達也／2013年10月25日(金) 18:00～19:30

「小説に何ができるか～仙河海市の物語を通して～」

くまがい・たつや◎作家。1958年、宮城県仙台市生まれ。仙台市在住。東京電機大学卒。『ウエンカムイの爪』(小説すばる新人賞)、『漂泊の牙』(新田次郎賞)、『邂逅の森』(山本周五郎賞／直木賞)、また震災後の著書に『光降る丘』、『烈風のレクイエム』、『調律師』がある。震災後の気仙沼市をモデルとした『潮の音、空の色、海の詩』を河北新報に連載中。

◆和合亮一／2013年11月8日(金) 18:00～19:30

「『詩の礫』から『廃炉詩篇』へ」

わごう・りょういち◎詩人。1968年、福島県福島市生まれ。福島市在住。福島大学卒。福島県立保原高校教諭。『After』(中原中也賞)、『地球頭脳詩篇』(土井晩翠賞)など。震災後の著書に『詩の黙礼』、『詩の礫』、『詩の邂逅』、『私とあなたここに生まれて』、『ふたたびの春に』、『廃炉詩篇』など。

◆鎌田慧／2013年11月22日(金) 18:00～19:30

「東北と原発の40年」

かまた・さとし◎ルポライター。1938年、青森県弘前市生まれ。東京都在住。新田次郎賞受賞の『反骨 鈴木東民の生涯』、毎日出版文化賞受賞の『六ヶ所村の記録』など著書多数。他に『日本の原発危険地帯』、『原発列島を行く』、『さようなら原発の決意』、『怒りのいまを刻む』、『石をうがつ』など。

◆若松丈太郎／2013年12月6日(金) 18:00～19:30

「3.11以前、福島の反原発詩歌」

わかまつ・じょうたろう◎詩人。1935年、岩手県生まれ。南相馬市在住。福島大学卒業。福島県内の高校の教員となる。南相馬市埴谷島尾記念文学資料館調査員。著書に『詩集 海のほうへ 海のほうから』(福田正夫賞)、『詩集 北緯37度25分の風とカナリア』、『ひとのあかし』(アーサー・ビナートとの共著)、『福島原発棄民』、『福島核災棄民』など。

◆玄侑宗久／2014年2月17日(月) 18:00～19:30

「無常を生き抜く」

げんゆう・そうきゅう◎作家。臨済宗妙心寺派福聚寺住職。ふくしま会議共同代表。1956年、福島県三春町生まれ。三春町在住。慶応義塾大学卒。『中陰の花』(芥川賞)、『般若心経 いのちの対話』(文藝春秋読者賞)など。震災後の著書に『福島に生きる』など。2011年の東日本大震災では政府の復興構想会議委員を務める。震災後の著書に『光の山』、『被災地から問うこの国のかたち』(赤坂憲雄、和合亮一との共著)など。

【東北学院大学地域共生推進機構とは】

共生の大地 東北のために

東日本大震災を経験した後、地域に対して大学が果たさなければならない役割りが明確となりました。第一に、災害復旧に果たす大学生ボランティアの役割、第二に、疲弊した地域の産業復興に果たす媒介者の役割、第三に、地域研究を通して地域のあるべき姿を構想していく役割、そして第四に地域を構成する種々の階層の人々と共生を目指していく役割。これらの役割を果たしつつ、地域に深い貢献を成し遂げるために、東北学院大学は地域共生推進機構を設立いたしました。

■まちづくり／減災クラスター支援部門

- ・S&CC(スマート&コンパクトシティ)構想実現に向けた動き
- ・企業との連携による研究の促進
- ・企業への技術支援および高齢者の生涯学習と仮設住宅支援

■地域を担う人材の育成／地域人材育成・教育研究支援部門

- ・東日本大震災による仮設住宅(みなし仮設住宅を含む)に居住する住民に、全学部の聴講課目を無料で提供
- ・カリキュラムにおけるキャリア養成の内容と実質的担当者の策定
- ・経済界および同窓会との連携による、企業を担う人材の横断会議
- ・就職支援への教員の協力意識の涵養
- ・仮設住宅在住の高齢者の勉学意欲開発とその環境設定
- ・防災教育推進
- ・既実施の公開講座・講演会のとりまとめ

■ボランティア・地域福祉／市民協働部門

- ・災害ボランティアステーションにおける活動の充実と展開
- ・ボランティア活動とフィールドワーク単位化の全学への拡大
- ・小学校外国語教育の支援
- ・地域社会とのスポーツ教育の可能性模索

■多様な人材によるコミュニティ創造／多文化共生・国際交流部門

- ・各レベルの外部機関との連携による多文化共生の現状把握と課題解決支援
- ・本学における国際交流の戦略策定と活動支援
- ・災害ボランティアステーションとの連携模索

【本件に関するお申込み・お問い合わせ】

東北学院大学地域共生推進機構

〒980-8511 仙台市青葉区土樋1-3-1

FAX:022-264-6364 Eメール: kikou@staff.tohoku-gakuin.ac.jp